

# Yumeken

# 秋

2023 Vol.698

◆特集〇話題の焦点

改めてSDGsについて考える

◆夢インタビュー

イベントやSNSで魅力を発信  
甲賀を伊賀に負けない忍者の聖地に！

◆第29回夢けんせつフォトコンテスト

入賞作品紹介

◆おじゃまします

株式会社 大伴組



# 改めてSDGsについて考える

SDGs(エスディージーズ)ということばを耳にしたり、カラフルな色使いの17の目標を目にする機会が多くなりました。とはいえ、国連が定めた目標を達成するために国や企業が取り組むことで、身近なことに思えない、何か自分ができることをしたいと思っても、どう取り組めばいいのかわからないという人も少なくないかもしれません。そこで、改めてSDGsについて取り上げて、私たちが日々の暮らしの中でどんなことができるかについて考えてみることにしました。



環境問題や気候変動、貧困や紛争など、今、世界は多くの課題に直面しています。将来にわたって、世界中の人々がこの地球に暮らしていくために、2030年までにみんなで行った課題解決に取り組んでいこうと、国連が定めた「持続可能な開発目標」がSDGsです。2015年の国連サミットで、すべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。

日本では2016年に内閣総理大臣を本部長とする「SDGs推進本部」を設置し、各省庁による具体的な施策を盛り込んだ「SDGsアクションプラン」を毎年策定して、政府を中心に企業や自治体、各種団体、個人が取り組みを進めています。

2023年現在、日本のSDGs達成度ランキングは166カ国中21位。上位を占めるのはスウェーデンなどの北欧諸国です。順調に取り組みが進んでいる「ゴールもある反面、「ジェンダー平等」「気候変動対策」「海の豊かさ」「陸の豊かさ」など達成度が低い「ゴールもあるため、2030年に向けて企業や団体だけでなく、地域、家庭、個人の取り組みを一層強化していく必要があります。とはいえ、世界的な目標に、私たちの日々の暮らしの中でできることがどう結びつくのか、なかなかイメージしにくいのではないのでしょうか。

「MLGs(マザーレイクゴールズ)」は、SDGsの達成に向けた滋賀県ならではの取り組みで、琵琶湖版SDGsとして2021年に誕生しました。「琵琶湖を通じてSDG

Sをアクションまで落とし込む」「琵琶湖を通じて自分たちの活動がSDGsにつながっていることを発見する」ための仕組みでもあるMLGsがわかれば、SDGsはもっと身近なものになるかもしれません。

### 琵琶湖のための「びわかんじゅ」13のゴール

MLGsの13のゴールは、琵琶湖に関わる多様な人たちが集まって、毎年開催してきたマザーレイクフォーラムびわこミ会議で、10年間蓄積してきた琵琶湖のために自分たちができること「びわ湖との約束」をもとに、行政だけでなく、NPOや企業、研究者など多様なみなさんから成る「マザーレイクゴールズ推進委員会」によって定められました。

例えばGoal1「清らかな水を感じる水」には、1977年に琵琶湖で赤潮が発生した時、「石けん運動」が市民から主体的に起こったように、昔から琵琶湖を大切にしてきた琵琶湖への想いが受け継がれています。

また、災害が起きても被害をできるだけ小さくする暮らしへの転換を目指すGoal8「気候変動や自然災害に強い暮らし」や、地域の経済循環が活性化することで、環境も持続的に守っていくことになるGoal9「生業・産業に地域の資源を活かそう」など、琵琶湖が暮らしや産業と深く結びついていることを示しています。

さらに、Goal11「びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう」のように、琵琶湖に親しみを感じて好きになる人をもっと増やすことも目標になっています。

SDGsやMLGsを通じて、環境保全や水質保全などの取り組みを思い浮かべますが、このように、自然環境だけでなく、産業

## 湖国 街かどウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

# 滋賀県建設技術センター 『インフラDXブース』(草津市)



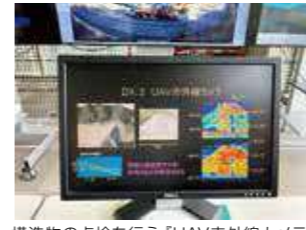
インフラDXの推進に取り組む滋賀県建設技術センター



センター1階に設けられた「インフラDXブース」

インフラDX(デジタルトランスフォーメーション)とは3次元データやドローンを活用したデジタル技術を導入して、建設工事等の業務効率化を図り、人材不足などの課題を解決していくというもので、公益財団法人滋賀県建設技術センター(以下、センター)ではインフラDXの推進に力を入れてきました。昨年7月にセンター内に開設された「インフラDXブース」では、展示や体験を通じてさまざまな先端技術に触れることができます。

「360度遠隔臨場」システムは、遠く離れた場所から工事現場を360度の視野で、リアルタイムに確認できるというもので、ほかにドローン測量のデータをもとに作成した高精度な現場の3Dモデルを作成する「UAVレーザ」、近赤外線カメラを使って目視点検が難しい構造物の劣化した箇所を特定



構造物の点検を行う「UAV赤外線カメラ」



橋やダムなどの3Dモデルを製作できる最新の3Dカラープリンタ

定する「UAV赤外線カメラ」、工事の過程を撮影した画像を「マ送り動画にした「タイムラプス」が、モニター画面を通していつでも見ることが出来ます。

センターを訪ねなくても「インフラDXブース」の情報にアクセスできるよう、メタバース空間も開設されています。

また、最新の3Dカラープリンタも導入されていて、地元説明会などで活用してもらえよう、橋やダム、地形の3Dモデルの製作も行っています。事前に申し込んでおくと、ミニドローンのほか、センター内に設けられた水槽で水中ドローンの操縦を体験することも出来ます。

ブース開設の目的は、デジタル技術の実用化と普及を図ること、より多くの人に最先端の建設技術に触れてもらうこと

とで、建設業のイメージアップを図ること。今後ブースの拡充を進め、現場見学とブースの見学を組み合わせた学生向けのプログラムなども充実させながら、若い人たちに建設業に興味を持ってもらうようにしたいと考えています。

滋賀県建設技術センター  
●草津市野路6丁目9-32  
公益財団法人滋賀県建設技術センター1階  
●9:00~17:00  
●問い合わせ先:(公財)滋賀県建設技術センター 技術課 077-565-0216



水中ドローン

事前に申し込んでおくとミニドローンや水中ドローンの操縦体験もできる。

## CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
滋賀県建設技術センター『インフラDXブース』(草津市)……………	3
特集・話題の焦点……………	3
改めてSDGsについて考える……………	3
第29回……………	6
夢けんせつフォトコンテスト	6
<b>入賞作品紹介</b>	6
おじゃまします……………	12
<b>株式会社大伴組</b>	12
夢インタビュ……………	14
イベントやSNSで魅力を発信	14
甲賀を伊賀に負けな	14
忍者の聖地に!	14
甲賀市地域おこし協力隊員	14
福島 嵩仁さん	14
こと・もの・滋賀……………	15
<b>株式会社浅尾</b>	15
『スレンガmini』	15
夢けんひろば……………	16
「仕事の達人・遊びの達人」……	18
仕事とトレーニングを両立	18
日本代表のメンバーとして活躍	18
中野 貴文さん	18
クイズ	19
近江うまいもの紀行……………	19
編集後記	19
表紙写真	19
「ほくにもできた!」竹内 達哉	19
「ダム放水」青木 宏樹	19
「操作したい多軸台車」knozians	19



MLGsロゴマーク・キーコンセプト

琵琶湖を中央に配し、周囲には地球を模した円形の中に13のゴールカラーを配置したロゴマーク。円形は琵琶湖をとりまく湖国・滋賀、そして地球を表現しています。「琵琶湖は生活を写す鏡」「琵琶湖は地球の問題を映す」ことを表し、琵琶湖・滋賀から世界を変えるための目標であることを表しています。

変化のはじまりは「あなたと私」。あらゆる場所ですま二人が協力し、小さなことを積み上げ、共に変わっていくことが連鎖して、点が線に、線が面へと広がり、社会全体の変化につながっていきたい。そんな思いが込められています。

や暮らしも含めた琵琶湖との関わり方を「ゴール」に、県民すべてが自分のこととして取り組むことを目指しているのが特徴です。

環境、暮らし、経済の健全な循環を目指して

滋賀県理事(琵琶湖政策・MLGs推進担当)の三和伸彦さんは、「琵琶湖をめぐる問題はとても複雑で、水質が改善されたいが一方で、ある目標は達成に近づいたけれど、そのために別の目標達成に影響があるといったことも起こりうるし、環境や水質の問題がクリアされるだけでなく、経済活動もちゃんとまわっていかないとけない。そのため「健全な循環」をキーワードに、全体のつながりを見て、環境も暮らしも経済活動もすべてがうまく回る仕組みを考えていくことが大切になる」と説明します。

さまざまな立場でできることから取り組む

では、実際にMLGsに取り組みたいと思ったら、どんなことから始めたいのでしょうか。「環境保全や水質保全などの取り組みだけでなく、できることはほかにもたくさんある」と三和さんが言うように、MLGsのウェブサイトに掲げられたアジェンダには、具体的なアクション例がゴールごとに提案されています。

また、学生ライターの取材記事などを参考に、自分ができること、やりたいことを考えたり、MLGsが実施するイベントやワークショップに参加することが、アクションを起こすきっかけになるかもしれません。「イベント

も、各分野の専門家が13のゴールについて、状態(現状)と傾向(以前に比べてどう変わりつつあるか)を評価するだけでなく、それぞれのゴールがどのように関連し合っているかを見て、総合的に評価を行っていくことを大切にしています。

年に一度、開催する「MLGsみんなのBIWAKO会議」では、さまざまな立場の人々が参加して、専門家が評価したゴールの達成状況を確認しあい、今後に向けて学びあう機会を設けています。

「MLGs体操」をプロデュース、自らMLGs広報大使となって普及に努めています。また、体操のバックに流れる「マザーレイク・ゴールズのうた」は、MLGsに賛同した



県職員の研修やさまざまなイベントで「MLGs体操」を紹介



「近江八幡児童合唱団スキップ」のみならず歌っています。

そのほかにも、ピワイチに挑戦してみてもいいし、その際、県外の友だちも誘って、「びわ湖を愛し愛する人を増やそう」の目標達成に貢献できるかもしれません。

三和さんは「企業や団体だけでなく、誰もがさまざまな立場で自分ができることに取り組んでいくことが、目標達成には欠かせない。自分の暮らしや仕事をもう一度見直して、少しでも琵琶湖を良くする方法があれば、ちょっとやり方を変えてみてほしい」と提言します。

そして、「目標達成のために解決すべき課題には複数の側面があり、さまざまな立場や意見があることに気付き、多様性を尊重しながらみんなで取り組み、全体としてより良くなっていくことが大切になる」と語ります。それは、Goal 13が掲げるように、つながりあうことで「健全な循環」が生まれ、SDGsの目標達成にも大いに貢献できるということではないでしょうか。

こんなSDGsも

SDGsをテーマにした私設公園『庄の本パーク』 休耕田にハスを植えて公園に

大津市真野にある「庄の本パーク」は、SDGsをテーマにした私設公園ですが、オーナーの井上昌宏さんによると、最初からSDGsを意識していたわけではなく、たとか。もともと田んぼがあった隣接地に太陽光発電施設ができたことから、雨が降った時に大量の雨水や土砂が流れ出し、下流にある農業用溜池に入り込まないようにと、所有していた休耕田を調整池にしたことが公園整備のきっかけになりました。



ハスの中のキャンパス



休耕田に隣接する里山



非常電源コンセント

池にすると周囲をフェンスで囲まないといけないため、長浜市の「あいのたに」ロータスプロジェクト」を参考に、ハスを植えて栽培する耕作地にすることにしました。手に取れる距離で花を楽しむようにして、地域の人たちが気軽に見に来られるようにしたい、さらにハス池を中心にキャンパスや貸し農園など、訪れた人が楽しめる公園にしようという構想が広がりました。

また、井上さんが当初から考えていたのは、大きな災害が起これば、防災拠点として活用できる

憩いの場+災害時に拠点になれる場所

最初は一人で整備を始めた井上さんですが、活動に興味を持った仲間が一人二人と増え、休耕田の奥にある小さな里山や竹やぶを整備し、テントサイトや貸し農園、砂場などを整備していく中で、「地域のみならず、憩いの場であり、大人の遊び場であり、災害時には支援拠点となる場所」という位置づけが明確になっていきました。



間近で見られる庄の本パークのハスの花

そして、「ここでやっていることは、SDGsが掲げる目標達成に貢献できるのでは」ということに気づき、「SDGsの目標に対して何ができるかを考えていく」と、17の目標すべてに「ここで取り組むべきこと」を井上さん。例えばGoal 15「陸の豊かさを守ろう」に対して、「陸上生態系の発見と在来種保護を考えると」という目標を設定して、外来生物も含めてパークや周辺地域の動植物について調査を行うと、多様な生態系についての理解を深め、動植物を保護する仕組みづくりを目指しています。

また、調整池でハスを栽培することにしたのは、小さな農地も放棄することなく活かす。

そして、地域社会におけるパートナーシップのミニチュアモデルとして、特に災害時に役立つ機能を備えていることから、仲間や地域との連携を強化し、命を守るための準備を進めています。「レンコンはいざという時の非常食になるし、火の扱い方、ナタや鎌、チェーンソーの使い方、携帯トイレの体験などもできるので、非常時に生き抜く力を少しでも高められるような体験メニューをここで提供していきたい」と井上さんは考えています。

『庄の本パーク』の詳細は以下のサイトで確認できます。  
<https://solar.hp.peraichi.com>

- 庄の本パークのSDGs
- 01 貧困をなくそう ▶ 誰でも働ける方法を模索する
  - 02 飢餓をゼロに ▶ 農地を農地のまま残す
  - 03 すべての人に健康と福祉を ▶ ココロは美しいものを見と喜びます
  - 04 質の高い教育をみんなに ▶ 自分の手でものを作り出す工夫
  - 05 ジェンダー平等を実現しよう ▶ 仲間意識の高揚
  - 06 安全な水とトイレを世界中に ▶ 安全かどうか。水の成分を見る
  - 07 エネルギーをみんなにそしてクリーンに ▶ 大規模災害時にアクセスできる電力の確保
  - 08 働きがいも経済成長も ▶ ディーセント・ワークを推進する
  - 09 産業と技術革新の基盤をつくらう ▶ イノベーションの試験管
  - 10 人や国の不平等をなくそう ▶ 不平等を是正する
  - 11 住み続けられるまちづくりを ▶ 異質な居住地域を包括する場所をつくる
  - 12 つくる責任つかう責任 ▶ 持続可能な消費と生産のパターンを体験
  - 13 気候変動に具体的な対策を ▶ 気候変動による影響を体験する
  - 14 海の豊かさを守ろう ▶ すべての池に流れ込むことの理解
  - 15 陸の豊かさを守ろう ▶ 陸上生態系の発見と在来種保護を考える
  - 16 平和と公正をすべての人に ▶ 現状の法律の問題点を共有する
  - 17 パートナーシップで目標を達成しよう ▶ グローバルパートナーシップのミニモデル

優秀賞



建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞  
「プロの仕事場」河本 泉 [熊本県]

評 無数の機械や人が働く規模の大きな現場、さらに大きく感じます。画面の外を想像し何が出来るのだろうか?楽しみです。



滋賀労働局長賞  
「ICTでスマート施工」水野 華織 [滋賀県]

評 新しい機械を操る若いスタッフ、画面を見つめ施工方法の検討や設計。関係者以外知れない世界を覗き見出来ました。



独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞  
「琵琶湖を守る潜水夫」島 秀紀 [滋賀県]

評 潜水服姿で浅いところの作業、意表を突く画面が不思議な目を引きまします。湖底の調査や作業が続くのでしょうか。



一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会会長賞  
「UAV パイロット議論中」吉田 美夢 [滋賀県]

評 ドローンの操縦、二人の眼差しは画面に集中。遠く見えない現場の様子も手に取るように見える。背後の風景も臨場感があります。

特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞  
「管接合、ボルト締め付けヨシ!!」  
石塚 博之 [滋賀県]

評 管の周囲の色の中に浮かぶシルエットの作業者、切り絵の様な表現で手の動きを端的に捉え、作業を想像させる魅力があります。

# PHOTO 第29回 CONTEST 入賞作品

第1部「建設業ではたらく人々」  
第2部「建設物がある滋賀の風景」  
第3部 インスタグラム部門  
「建設業ではたらく人々」

●審査員/滋賀県写真連盟 会長:澤野 二朗 並びに主催者

- 主催/一般社団法人滋賀県建設業協会
- 後援/滋賀県、滋賀労働局、公益社団法人滋賀県建設産業団体連合会、西日本建設業保証株式会社滋賀支店、滋賀県建設事業協同組合、一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送株式会社、株式会社SIN
- 協賛/滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、フジカラープロフェッショナルラボ(株)トミカラー

第1部・第2部	応募者数	応募点数	第1部	第2部
総数	125人	246点	112点	134点
内訳	県内	89人	60点	117点
	県外	36人	52点	17点
			応募者数	応募点数
第3部 インスタグラム部門			14人	21点

## 審査後記 滋賀県写真連盟会長 澤野 二朗

コロナ禍で昨年より応募人数、点数とも若干少なくなりましたが、全国各地からご応募いただきありがとうございます。

第一部では、厳しい環境の中、現場の雰囲気や巧みに捉えた一方、切り詰めすぎて環境や雰囲気が伝わって来ない作品もあり残念でした。また、従事者でないと撮影できない場所、一般に知られていない仕事の内容など、建設現場の今日(こんにち)をよく伝える良い広報作品もありました。第二部では、新しい場所の発見、視覚、季節や時間帯を変え、応募者の努力を感じました。第三部も4年目ですが応募が少ないのは残念で気軽に応募いただきたいと思えます。次回も若者や子供たちに夢を与える働く人々の生き生きとした姿をあなたのカメラアイで、また未だ見ない滋賀の建設物のある風景を作品に仕上げてください。

入賞作品展のお知らせ

入場無料

●令和6年4月中旬  
愛荘町立愛知川びんてまりの館  
(滋賀県愛知郡愛荘町市1673)

## 第1部「建設業ではたらく人々」(デジカメ・カメラ可)

滋賀県知事賞  
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞  
滋賀県写真連盟会長賞

グランプリ

「ぼくにもできた!」竹内 達哉 [滋賀県]

評

操縦桿を握る手を支えてもらいながら、重機を操るイベントでの体験。こんな仕事をしたいな〜子供の夢が大きく膨らんだ。



## 第2部「建設物がある滋賀の風景」

(デジカメ・カメラ可)

### グランプリ

「ダム放水」青木 宏樹 [滋賀県 滋賀県甲賀市]

滋賀県知事賞  
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞  
滋賀県写真連盟会長賞



評

放水の形、流れゆく先には集落。撮影位置を選び思い切った俯瞰撮影でダム周囲の状況も巧く取り入れています。

### 優秀賞

「麗しの里 滋賀の未来」清水 一司 [滋賀県 滋賀県大津市]

滋賀産業新聞賞



高速道路の建設、集落をまたく高架道路。手前に大きく入れた農機具、進みゆく工事と日々の農作業を巧にまとめました。

「迷い鳥」野村 昭夫 [滋賀県 滋賀県彦根市]

公益社団法人滋賀県建設業団体連合会会長賞



桜も咲き誇りのどかな風景、空の映り込みも美しく、よい位置に舞い降りた鳥。瞬時の出来事を逃さなかった。



「足場組立」木村 菜津子 [滋賀県]



「石を積む」岡本 聖 [京都府]



「舗装工事」乗松 賢二 [愛媛県]



「チームワーク」石森 文夫 [福島県]



「確認」杉浦 幸雄 [愛知県]



「課外授業」伊藤 孝司 [三重県]



「三位一体」前河 栄次 [滋賀県]



「現場帰り」福井 齋 [滋賀県]



「東京タワーの見える場所で」上杉 裕昭 [三重県]



「あと2cm右やな!」谷口 正樹 [滋賀県]

### 奨励賞

「合図」永松 愛 [福岡県]



「出来形確認」北川 孝 [滋賀県]



「水道管布設工事」高木 志津夫 [福島県]

「日常」橋本 健一 [滋賀県]



「合図!集中!」森岡 道公 [滋賀県]



「春の遊覧」西日本建設業保証株式会社滋賀支店長賞  
若林 武司 [滋賀県 滋賀県彦根市]

春爛漫、お堀をめぐる花見船。古木に年代を感じ、水面に映り込む花の色も美しく、波紋で画面に動きを加えました。



「朝焼けに染まる頃」滋賀県建設事業協同組合理事長賞  
平 尚治 [滋賀県 滋賀県大津市]

美しい朝焼け、沢山の車が行きかう主要道路の橋。撮影場所を決め早朝の撮影、作者の企画に脱帽。安全な場所からの撮影もよくわかります。



BBCびわ湖放送株式会社賞  
「安全・安心の峠道」  
川村 恒雄〔滋賀県〕〈滋賀県多賀町 鞍掛峠〉

峠の道の削られた山肌には崩壊防止の強靱な補強工事色づいた木々が青空に映え絶好の撮影場所を通過するバイクをうまく組み合わせました。スローシャッターで少し流すとさらに良かった。

奨励賞



「時間旅行 道」  
池口 真喜子〔滋賀県〕  
〈滋賀県大津市〉



「新緑の頃」  
小林 正治〔滋賀県〕  
〈滋賀県東近江市〉



「お城へ続く歩道橋」  
奥居 由紀夫〔滋賀県〕  
〈滋賀県彦根市〉



「私を忘れないで」  
城田 清延〔三重県〕  
〈滋賀県日野町〉



「夢スタジアム」  
近野 和彦〔滋賀県〕  
〈滋賀県彦根市〉

入選

第3部 インスタグラム部門「建設業ではたらく人々」(デジカメ・カメラ可)

グランプリ



滋賀県知事賞  
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞  
滋賀県写真連盟会長賞  
「操作したい多軸台車」 kmozisan5

評  
30個位の車輪に支えられた台車。大きな橋桁を掛けているのでしよう。よくこんな現場に出会った。大きさと車輪の動きを見事に捉えています。



「絶景への空間」  
木下 正治〔京都府〕〈滋賀県大津市今堅田〉



「大河を渡る」  
福田 尚人〔滋賀県〕〈近江八幡市 日野川堤防〉



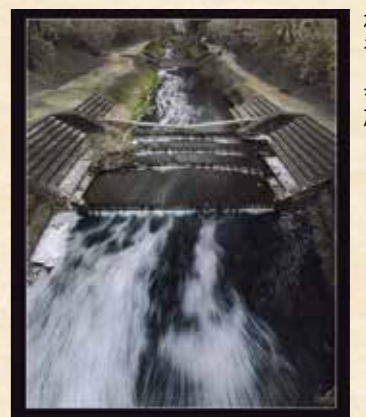
「建設中」  
大橋 実〔滋賀県〕  
〈滋賀県大津市〉



「琵琶の青」  
桑原 達夫〔滋賀県〕〈滋賀県彦根市〉



「疏水の春」  
高橋 康子〔滋賀県〕〈滋賀県大津市〉



「惜春のうぐい川」  
杉谷 幸雄〔滋賀県〕〈滋賀県甲賀市〉

優秀賞



夢けんせつフォトコン実行委員会 委員長賞  
「ドローン撮影」  
senshogroup

評  
目に見えない箇所、高所からの観察は重要。青空、雲の隙にドローンを捉え存在がよくわかります。



評  
興味津々、厚着をし寒さをしのぎながら子供の目線。先には重機の動き、夢が膨らみ未来を重ねているようです。



「吉永のマンポ」  
西川 美恵〔滋賀県〕  
〈滋賀県湖南市〉



「晩秋」  
寺尾 幹男〔滋賀県〕〈滋賀県彦根市〉



「SDGsな世界」  
髙津 貴志〔滋賀県〕〈滋賀県東近江市〉

# 地域に貢献できる企業として SDGsの目標達成に向けた取り組みを推進

株式会社 大伴組

大津市滋賀里一丁目2番20号

代表取締役 大伴 浩史



本社社屋



従業員及び関係会社の社員が参加して実施された救急救命講習会



コロナウイルスの流行に伴い実施を見送っていた安全衛生大会を令和4年に再開、今年も6月に実施した



毎年行っている職場体験実習では、地元の中学校の生徒が現場作業を体験している



## 大学生のアイデアを 過疎地の活性化に

1962年創業の株式会社 大伴組。土地造成、河川改修、下水道工事、道路の改良・新設・災害復旧などを行うほか、解体工事や産業廃棄物の収集運搬も行っていきます。

2011年に代表取締役役に就任した大伴浩史社長は、2017年に滋賀県がSDGs宣言を行ったことを受け、2018年に会社としてSDGsを推進して「SDGsを宣言しました。」経営理念である『期待を超えた感動』を目標に、お客様、お取引先様、従業員、地球環境、地域社会に貢献できる存在として、持続可能な未来社会の実現に取り組んでいきたいと考えたと大伴社長。

宣言では、発注者、元請負業者、下請負業者、地球環境、従業員、社会貢献のそれぞれに達成目標を当てはめ、今後の施策を打ち出しています。

例えば『官公庁等の発注者様に対するSDGsの取り組み』として、発注者の検査基準とは別に社内基準を設けてより品質の高い施工を提供することや、環境法令等の規制基準を遵守したうえで、環境負荷低減のための目標を掲げて取り組んでいくことを施策として掲げています。

また、『従業員に対するSDGsの取り組み』では、有給休暇・育児休暇等の利用促進、働き方改革による生産性の向上、若年者従業員の待遇改善、国家試験等の取得促進の強化、独自の評価制度を継続しつつ人材教育活動の強化を図ることなどを目標としています。

さらに『社会貢献に対するSDGsの取り組み』として、産官学によるSDGs×まちづくり計画の活動を掲げる同社では、大学生を招いて交流や意見交換を行うなかから、過疎地域の空き家を活用した新たなビジネスモデルの創出について、学生たちのアイデアをまとめて滋賀県立大学で発表を行いました。「建設業の現状や過疎地域の活性化などについて、若い人たちが関心を持つきっかけになったのではないかと大伴社長は評価しています。

## 人間性を重視した 採用・育成を

人材を採用し、育成していくことは同社にとっても大きな課題で、すぐ仕事ができる経験者を採用することも多いなか、大伴社長は「技術や資格も大切だが、やはり一番に求めるのは人間性になる。組織の中で円滑な人間関係を保って仕事をしていくためには人間力が求められる」と考えています。

長く事業を続けるなかで地元との信頼関係



産官学によるSDGs×まちづくり計画活動として、大学生との意見交換会を実施、過疎地域の空き家の活用などについて学生からアイデアを募った



を大切にしてきた同社では、淡海エコフオスターとして道路の清掃活動などを行うほか、地元の中学生を受け入れて職場体験実習を実施してきました。「現場での簡単な作業を安全に体験してもらうことで、自然を相手に構造物を造る建設業の面白さを知ってもらえたら」という思いで、毎年学生を受け入れていきます。

また、重機を多く保有していることもあって、災害復旧の依頼にも迅速に対応できるようにしています。

大伴社長は競技射撃（クレー射撃）で、滋賀代表として国体に何度も出場した経験があり、鳥獣被害対策実施隊として有害鳥獣の駆除にも協力してきました。忙しい仕事の合間を縫って、しばらく休んでいたクレー射撃の練習も再開したという大伴社長。温暖化などの影響で被害が増えていることから、農作物の被害を減らすことに少しでも役に立てればと考えています。

社会貢献活動の一環として淡海エコフオスターを毎月第4土曜日に実施、道路の清掃活動を行っている



社員研修旅行で訪れた韓国濟州島にて



〈施行例〉 滝川補助通常砂防工事



〈施行例〉 真野川広域河川改修工事



〈施工例〉 引ノ尻谷単独砂防工事



〈施工例〉 伊庭円山線補助道路整備工事



大伴 浩史代表取締役

## イベントやSNSで魅力を発信 甲賀を伊賀に負けない忍者の聖地に!!

小学生の頃から忍者が大好きで、ついには三重大学の忍者・忍術修士号を取得した福島 嵩仁さん。大手IT企業の社員から転身して、現在は甲賀の企画などさまざまな活動を行っている福島さんを、甲賀流リアル忍者館に訪ねました。



三重大学大学院を卒業して修士号「Master of Ninja」を取得



子ども向けの忍術教室で講師を務める福島さん

### ●忍者に興味を持たれたきっかけは?

小学生の時に忍者の漫画を見て興味を持ち、弟と忍者ごっこをして遊んだり、忍者のアニメや小説を読んですっかりはまってしまいました。

大人になっても忍者への興味は尽きず、東京のIT企業に入社してから、休日には忍者愛好家と伊賀や甲賀を訪れて、地元の人々と交流したりしていました。

会社では新規事業を立ち上げる仕事にやりがいも感じていたのですが、次第に好きな忍者を仕事にできないかと思うようになりました。

### ●仕事を辞めて好きな道に進まれることに迷いはなかったのですか?

このまま仕事を続けるか、キャリアを諦めてやりたいことをやるかを天秤にかけるため、やりたいことを書き出してみたところ、圧倒的に忍者に関するものが多かったため、退職を決定しました。

ちょうどそのタイミングで三重大学に専門科目「忍者・忍術学」が開設されることになり、第一期生として入学しました。日本忍者協議会のスタッフとして忍者の情報を国内外に発信する仕事をしながら、東京から通って授業を受け、修士号「Master of Ninja」を取得しました。

### ●甲賀市に移住されることになった経緯は?

かつて尾張藩に使えた甲賀忍者の末裔、渡辺家が代々暮らした旧家が空き家になるということを聞いて、ぜひそこに住みたいと思ったんです。甲賀市役所につけて、地域おこし協力隊に採用してもらい、甲賀に移住しました。実は忍者に関しては、伊賀市に比べると、甲

### ●甲賀市は三重大のような研究機関もなくて、あまり情報発信できていないと思っていました。地域に溶け込んで、甲賀忍者の研究を行いなうら、その魅力を発信していくことで、伊賀も甲賀ももっと盛り上げていけるのではないかと考えたんです。

現在は甲賀市観光まちづくり協会のスタッフとして、甲賀流リアル忍者館の運営に携わるほか、忍術を実際に行ってYouTubeで発信したり、忍者に関する調査や研究を行っています。甲賀流忍者調査団の団員としても活動しています。



甲賀市地域おこし協力隊員 福島 嵩仁さん

プロフィール  
千葉県松戸市出身。大学卒業後、大手IT会社「ヤフー」の法務部や事業部で10年間勤務した後、退社し、忍者ゆかりの地を持つ自治体などが連携して観光振興や情報発信を進める「日本忍者協議会」の職員に。三重大学院修士課程の忍者・忍術学コースを修了、甲賀市に移住して、現在は地域おこし協力隊として活躍。

### ●今はどんなことをしておられますか?

現在は甲賀市観光まちづくり協会のスタッフとして、甲賀流リアル忍者館の運営に携わるほか、忍術を実際に行ってYouTubeで発信したり、忍者に関する調査や研究を行っています。甲賀流忍者調査団の団員としても活動しています。



幻の忍術書「間林清陽」を発見して話題となった

に、参加者が武将と忍者に分かれて戦う「忍夜討(SHINOBI YOUCHI)」を企画しました。今年も10月21日に第2回を開催することになっています。

### ●改めて福島さんにとって忍者の魅力とは?

黒装束で秘術を駆使して敵と闘う忍者のイメージは、江戸時代の歌舞伎などから生まれたフィクションで、その一方で謀報活動などを行っていた忍者がリアルに存在して、歴史を裏から動かしていました。研究で実像がわかってきましたが、真の姿はまだなお謎に包まれていて、いろいろな想像ができる、そういうところがおもしろいと思います。

### ●これからどんなことをやりたいかと思っておられますか?

甲賀を忍者の聖地にしたいですね。もっともっと忍者関連のスポットを増やしたり、忍者体験のアクティビティを提供するビジネスを立ち上げたりして、ここに来たら忍者になれるという街にしたいと思っています。

### 日本おもちゃ大賞の優秀賞を受賞

幼稚園や保育園向けに開発された『ズレンガ』を一般家庭向きに小さなサイズにして、手の届きやすい価格にした『ズレンガmini』を発売したところ、2023年度の日本おもちゃ大賞エデュケーション・トイ部門の優秀賞を受賞しました。

2種類のパーツのみで考えながら組み立て遊びができる点や、天然のスギ、ヒノキを使用しているにもかかわらず、乾燥、加工技術により経年による寸法変化を抑えた仕様になっていることが評価されたこと、大手玩具メーカーの出版が多い中で、滋賀県の小さな製材所が大賞を受賞したことにも注目が集まりました。

同社では、今後は『キグミンの森』を活用して、もっと多くのの人々に木の良さを体感してもらい、木の遊具で遊ぶ楽しさを子どもたちに伝えていきたいと期待を寄せています。



大型遊具のほか木のパズルなどで遊ぶこともできる。

### びわ湖材の木製ブロック『ズレンガ』

長浜市の黒壁スクエアの一角にある「天然木材工房Kigumi」には、滋賀県産の木材(びわ湖材)でつくった大型の遊具やパズルなどのおもちゃで、子どもたちが遊べる『キグミンの森』が併設されています。

中でも目をひくのが、実際に中に入って遊べる大きな木の家で、『ズレンガ』という木製ブロックを組み立ててつくられています。『ズレンガ』は、10個の穴が空いたレンガ大のブロックと、穴に差し込んでブロックをつなげる連結棒(ポッチ)という2つのパーツからなる木製ブロックで、従来の木製の積み木と異なり、しっかりと固定することで、崩れにくく安全に遊べるのが特徴です。

### ゲーム以上に夢中になれる木のおもちゃ

株式会社浅尾は、長く地元の山から切り出した原木を木材にする製材所を営んできました。しかし、安い輸入材や木材以外の建材の普及に押され、30年ほど前から国産材の需要がどんどん減ってきたことから、代表の浅尾年彦さんは、木を使ったオリジナル商品の

## 株式会社 浅尾 『ズレンガmini』



天然木材工房Kigumi  
滋賀県長浜市元浜14-22  
0749-62-2419



「ズレンガmini」  
24ピース 15,840円  
8ピース 6,600円



子どもたちが出入りしても安全な「ズレンガ」のお家



「キグミンの森」の木製遊具は浅尾社長が手づくりしたもの



株式会社浅尾は、長く地元の山から切り出した原木を木材にする製材所を営んできました。しかし、安い輸入材や木材以外の建材の普及に押され、30年ほど前から国産材の需要がどんどん減ってきたことから、代表の浅尾年彦さんは、木を使ったオリジナル商品の開発に取り組むようになりまし た。家具の製造などを行っていたところ、「木のおもちゃやパズルを作っている」という地元の幼稚園の先生たちからの要望に応えたこと が、ズレンガ誕生のきっかけとなりました。

浅尾社長は、子どもが安心して遊べるように、スギやヒノキの無垢材を用いて、化学薬品や塗料を使わず、手作業で一つ一つ磨いてさきくれないように仕上げることこだわりました。「昔前、子どもたちは自分で木を削ったりしておもちゃを作って遊んだもの。今の子どもたちが、ビデオゲーム以上に夢中になって遊べる木のおもちゃを作りたい」という想いがあったと語ります。

そんな想いが込められた『ズレンガ』は、動物やロボットといった複雑な形状のものも、自由な発想で組み立てることができるので、想像力や集中力を伸ばしたり、みんなで協力して大きなものを作ること、コミュニケーション能力を養ったりすることができま す。さらに、木のぬくもりに触れることで木が好きになり、自然を大切にすることを養う、木育の実践にもつながるはずです。

『キグミンの森』  
【定休日】  
火曜日  
【入場料】  
大人、子どもとも500円  
1歳未満無料  
保護者は1名分のみ入場料が必要



## 第29回「夢けんせつフォトコンテスト」審査会

8月9日(水)、夢けんプラザにおいて第29回「夢けんせつフォトコンテスト」実行委員会・審査会が開催されました。

応募は7月20日に締め切れ、第1部「建設業ではたらく人々」が112点、第2部「建設物がある滋賀の風景」が134点、第3部Instagram部門は21点と、全国から267点の力作が寄せられました。

当日は滋賀県写真連盟会長、主催者らによって厳正な審査が行われ、入賞作品44点が決定しました。



## 令和5年度の高島地域水防訓練に支部会員が参加

令和5年6月14日(水)に高島市新旭町太田の安曇川左岸において、令和5年度高島地域水防訓練が開催されました。

この訓練は、滋賀県等が主催し災害時における水防活動の円滑な活動を行い、洪水による水害被害の軽減に資することを目的に、出水期前に地域ごとに持ち回りで毎年開催されています。

今回は、高島支部会員が訓練に参加して土嚢を作成、その土嚢で釜段工<sup>(※1)</sup>や月輪工<sup>(※2)</sup>を完成させました。

災害時において建設業が果たす役割は重要で、現実起こりうる自然災害に対し、防災意識をつねに持ち続け、応急復旧活動にあたることにより、地域住民からつねに信頼される業界になれるよう訓練を通じPRしていきます。

※1 釜段工：漏水の噴き出し口を中心に土嚢を同心円状に積み上げる水防工法

※2 月輪工：漏水箇所周辺に土嚢を月の輪状に積み上げる水防工法



## 第58回滋賀県建設界野球大会

8月26日、9月2日、9月30日の3日間にわたり26チームの参加により皇子山総合運動公園において開催されました。

大会1日目の8月26日は、皇子山球場等で開会式と1、2回戦が行われました。開会式では、奥田大会会長の挨拶のあと、優勝旗、準優勝盾等の返還、西村建設チームの佐々木健介選手の宣誓が行われ大会が始まりました。

大会2日目の9月2日は、皇子山グラウンドで準々決勝が行われ準決勝進出4チームが決まりました。

大会最終日は9月30日に今津総合運動公園の今津スタジアムで準決勝と決勝戦が行われ、準決勝は、滋賀建機×高畑産業、近江八幡建設工業会×きんでん滋賀支店の2試合が行われました。結果、高畑産業と近江八幡建設工業会の2チームが決勝戦に進出しました。

決勝戦は、3対8で、近江八幡建設工業会が高畑産業に勝ち3度目の優勝を飾りました。

- |        |                        |
|--------|------------------------|
| 優勝     | 近江八幡建設工業会              |
| 準優勝    | 高畑産業                   |
| 3位     | 滋賀建機                   |
| 3位     | きんでん滋賀支店               |
| 最優秀選手賞 | 中村健太 選手<br>(近江八幡建設工業会) |
| 敢闘選手賞  | 仲川 亨 選手<br>(高畑産業)      |



滋賀県建設業協会の活動についてご紹介するコーナーです。協会広報委員会のフェイスブックもあわせてご覧ください。

# 夢けんひろば

## リクルートキャラバンによる出前授業を開催(彦根工業高校)

7月18日(火) 滋賀県土木交通部や、滋賀県立大学の学生団体「ケンチクノツナガリ」のメンバーらも参加して、リクルートキャラバンによる出前授業が、県立彦根工業高校建設課の3年生36名を対象に開催されました。

授業では建設業の概要や、施工管理技術者、建設ディレクターの仕事などの説明を行い、「資格取得でキャリアアップしやすい」「女性が活躍できる場もある」「人々の生活に必要な仕事でありプライドを持って取り組んでいる」などと魅力をPRしました。

ものづくりや、土木・建築分野についての質問に対して、生徒のみなさんが友人と相談しながら回答する場面もあり、和やかな雰囲気の中有意義な時間となりました。



## 「滋賀けんせつみらいフェスタ2023」を開催

滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会主催で、建設産業の魅力を発信する「滋賀けんせつみらいフェスタ2023」を、令和5年9月23日に希望が丘文化公園にて開催しました。

会場が津会場から希望が丘文化公園に変更となりましたが、多くのお客様が来場されました。

出展ブースは官公庁及び建設産業団体連合会加盟団体を中心に36ブース。子どもたちに大人気の建設重機試乗体験やものづくり体験など、多くのお客様に楽しんでいただきました。

ステージでは地元の野洲中学校吹奏楽部の演奏、びわ湖大津観光PR大使の木下洗希さんによるジャグリングパフォーマンス、滋賀県の若手・女性技術者表彰、作文コンクール・フォトコンテスト入賞表彰、滋賀県建設業協会青年部メンバーの吉見大さんがボーカルを務めるバンド「SOIL」による演奏をお客様に観覧いただきました。

ご来場のお客様は約4,100名と盛況の中、幕を閉じました。たくさんのご来場、ありがとうございました。



前号の答え  
シガダイハツ  
アリーナ

パズル&クイズ当選者

- 小山 眞さん
- 岡部 雄治さん
- 平塚 善美さん
- 平地 史弥さん
- 岩橋麻知子さん
- 木村 京加さん
- 馬場 俊弘さん
- 田中 明子さん
- 岡本 隆司さん
- 谷郷 喜英さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるって応募ください。
- 別のハガキにて応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 令和6年1月20日必着
- あて先 〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18 (一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

季刊夢けんせつ秋号

2023年(令和5年)10月10日  
通巻第698号  
発行 一般社団法人滋賀県建設業協会  
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18  
TEL.077-522-3232(代)  
FAX.077-522-7743  
https://www.yumeken.or.jp  
企画編集 広報委員会  
協力・印刷 宮川印刷株式会社

独自の製法で、さつまいもの自然な甘さを最大限に引き出した『へんないも』は、湖南市の新しい名物を作ったほしいと依頼された社博之さんが、調理師の経験を活かして開発したものです。

ヒントになったのは、社さんが子どものころに釣りのエサにしていたさつまいもで、釣り針をさしてもくずれないねつとりした状態にするため、ゆでて冷蔵庫で熟成させていました。「ある時、お腹が空いてエサのいもを食べてみると美味しかったことを思い出し、しつとりとした食感を再現してみようと考えました」と社さん。

使用するのはシルクスイートという品種のさつまいも。収穫してすぐではなく、熟成させて糖度の増したいもを焼き上げた後、低温で熟成させると、蜜がしみだしてしつとりとクリーミーな食感に。糖度は一般的な焼き芋の3倍以上、冷たくてもおいしい、一度食べたら病みつきになると口コミで評判になりました。

# 焼いただけなのに驚きの甘さ 『へんないも』



あふれる蜜は上手に焼いた時のお芋からのご褒美

はじめは「くちどけ焼芋」というネーミングで販売していましたが、ある時、「焼いただけでこんなに甘くなるなんて、へんないもや」という湖南市長(当時)がつぶやいたのを聞いた社さんが、そのまま商品名にしたところ、注目度が高まり、2018年の『第9回ニッポン全国ご当地おやつランキング』で第3位を受賞しました。

商品にならないような小さなさつまいもを利用した、一口サイズの『へんないも』も、切らずに手軽に食べられると好評で、農産物の廃棄を減らすことにもつながっています。調味料や添加物を一切使っていないので安心して食べられるだけでなく、さつまいもに含まれるでんぷんは冷めると消化されにくい繊維質に変化するため、冷たいまま食べると腸内環境を整えらるといった効果も期待できます。

へんないも屋

- 〒520-3252 湖南市石部北5-2-1
- TEL. 0748-69-6784
- 営業時間 10:00~17:00
- 定休日 火曜日、隔週水曜日



店内にはお芋のプリンやスイートポテトなどの自家製スイーツも



クリーミーな食感で病みつきになる美味しさ

## After Word

まだまだ暑い日々が続く中、先日、滋賀けんせつみらいフェスタが晴天の中、多くの来場者にお越しいただき開催することができました。今年より開催場所が希望が丘文化公園に変更され多少の不安もございましたが、家族連れの方も多く例年以上のにぎわいとなりました。重機等の試乗体験や職業体験で笑顔を見せる子供を見て、建設業界に少しでも興味をもってくれたらいいなとこちらにもこやかな気持ちになりました。来場いただきました皆様、運営いただいた関係各社の方に感謝申し上げます。

広報委員会では一般の方や子供達に建設業の魅力を広く伝えられるよう、様々な施策を通し活動しています。この『Yumeken』秋号についておりますアンケートはがきにて、建設業に対するご意見や質問などいただければ、取材等を通じ回答させていただきますので、是非アンケートにお答えいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

また本号にて取材対応いただきました関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。



### 仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

## 仕事とトレーニングを両立 日本代表のメンバーとして活躍

株式会社 三東工業社 中野 貴文

兄も高校でカヌーをやっていたのですが、その試合を見に行くと、とてもおもしろそうだと思ったことがきっかけです。高校に入学するカヌー部に入部しましたが、当時、県内でカヌー部のある高校は3校しかありませんでした。高校時代はインターハイや国内の大会に出場して、日本カヌースプリントジュニアユースでは1,000メートルで3位、500メートルで優勝しました。

カヌー競技には湖などで行うカヌー・スプリントと、流れのある河川でゲートなどをくぐってタイムを競うカヌー・スラローム、激流を下ってタイムを競うワイルドウォーターがあります。また、パドルの漕ぎ方も左右を漕ぐカヤックと、右なら右、左なら左と片側だけをメインに漕ぐカナディアンがあります。

スラロームは普段は見ることのできない水の上からの景色が見えるのが魅力で、スプリントはスピード感を楽しむことができます。そして、ワイルドウォーターは川によって異なる形状や流れの状況を瞬時に判断する難しさがありますが、それだけにおもしろさがあります。

私はカナディアンで高校時代はスプリント、大学からはワイルドウォーター

選手権に出場して入賞すること、またスラロームカナディアンでは、2025年に開催される滋賀国体に出場して入賞することです。そして、これから仕事をしながら、できるだけ長く楽しく競技を続けていきたいと思っています。



片側だけを漕ぐカナディアン



ワイルドウォーターで競技に挑む



高校時代はスプリントで国体などに出場

中心にやっています。2022年度の日本ランキング2位となり、現在は日本代表のAチームに所属しています。今年から社会人になりましたが、オフタイムをできるだけトレーニングに当てると、休日を利用して競技会に出場しています。今年は若手や山口で行われたジャパンカップに出場しました。

今後の目標は、ワイルドウォーターカナディアンで世界

①秋の味覚の代表選手ですが、近年不漁続きで高値に  
②こちらも秋を代表する高級食材  
③スイーツ好きなら一度は挑戦したい食べ放題

④人気のお菓子と言えば?  
⑤寒天を使った和スイーツ  
⑥イワシの干物  
⑦香り松茸、味〇〇〇  
⑧野性の鳥獣の肉のこと

⑨ヒラタケ科のキノコ  
⑩宇都宮や浜松が有名ですが…  
⑪中華の定番お漬物  
⑫里芋や肉を煮込んだ山形の郷土料理  
⑬お袋の味と言えば?  
⑭飛竜頭(ひりょうず)ともよばれる豆腐料理  
⑮ひき肉を使ったカレー

1 → 2 → 3 → パ → 4 5 → ツ → 6 → 7 → 8 → 9 → 10 → 11 → 12 → 13 → 14 → 15

パズル クイズ

美味いものって何ですか?

食に関することばをひらいてください。

〇の文字を組み合わせると、ヒント 特集「話題の焦点」

